

2022年度

第2四半期決算

期間：2022年1月1日～3月31日

2022年5月12日、ドイツ・ミュンヘン

好調な事業業績と成長 - 業績見込みを堅持

シーメンスAGのローランド・ブッシュ代表取締役社長兼CEOは、「第2四半期、当社は成長路線を継続し、好調な業績を達成することができました。受注高と売上高の増加は、前期に続き、デジタル化、自動化、および持続可能性をサポートする当社に対するお客さまの信頼を反映したものです。非常に厳しい環境の中ではありますが、当社の事業は引き続き好調に推移しています。また、当社は国際社会とともにウクライナでの戦争行為を非難し、社員の支援と人道支援に力を注いでいます。当社は本日、ロシアにおけるインダストリービジネス活動の縮小に向けた秩序あるプロセスの実行を決定したことを発表しました」と述べています。

また、シーメンスAGのラルフ・P・トーマス取締役 CFOは、「好調な営業成績と13億ユーロの優れたフリーキャッシュフローにより、シーメンスの第2四半期は、大きな逆風下でも発揮される当社の実行力と強さを明確に示すものとなっています。ポートフォリオの最適化およびサプライチェーンにおける継続的な課題解決の成果が目に見える形となったことで、当年度下半期の見通しについて確度を持って測れるようになりました。その結果、本年度業績見込みを維持することにしました」と述べています。

- 第2四半期の受注は、すべてのインダストリービジネスで2桁成長を達成し、前年同期比32%増の210億ユーロ、売上は前年同期比16%増の170億ユーロとなり、出荷受注比率は1.23。
- 為替変動および主にVarian Medical Systems, Inc. (Varian社) の買収によるポートフォリオ効果の影響を除いた前年同期比の受注は22%増、売上は7%増。
- インダストリービジネスの利益は、ロシアに対する制裁措置による影響が主にモビリティビジネスで総額6億ユーロあり、これが大きな負担となって利益が18億ユーロ、利益率11.0%と減益。
- 当期純利益は12億ユーロ、対応する基本的1株当たり利益 (EPS) は1.29ユーロ、企業買収時の取得原価配分前のEPSは1.50ユーロ。当期の純利益はロシア関連の影響が6億ユーロ含まれており、前年同期には廃止事業の売却益9億ユーロがあった。
- フリーキャッシュフローは、継続事業と非継続事業の両方から13億ユーロに増加 (2021年度第2四半期は12億ユーロ)

当四半期において、Siemens HealthineersがVarian社買収に関する取得価格配分を最新の情報に基づいて見直したため、前年同期の数値はそれに応じて表示されています。

SIEMENS

シーメンス

(単位：100万ユーロ)	第2四半期		増減 (%)	
	2022年度	2021年度	実績	比較
受注	20,978	15,879	32%	22%
売上	17,040	14,665	16%	7%
利益 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	1,777	2,039	(13)%	
内：退職手当	(51)	(129)		
利益率 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス	11.0%	14.7%		
退職手当を除く	11.3%	15.7%		
継続事業からの利益	1,209	1,516	(20)%	
内：退職手当	(62)	(215)		
非継続事業からの利益 (税控除後)	4	874	(100)%	
純利益	1,213	2,390	(49)%	
基本1株あたり利益 (単位：ユーロ)	1.29	2.82	(54)%	
PPA前のEPS (単位：ユーロ)	1.50	2.96	(49)%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	1,324	1,215	9%	
キャッシュ・コンバージョン・ レート	1.09	0.51	115%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	11.1%	21.2%		

- ウクライナ戦争、ロシアへの経済制裁、新型コロナウイルスのパンデミックによる影響を受け複雑なマクロ経済環境が続くも、シーメンスの主要市場の多くで成長機会が拡大。電子部品、原材料、および物流に関わるサプライチェーンリスクの増大による大きな混乱を、継続的に回避。
- 受注は、全インダストリービジネスで2桁増となり、好調に推移。
- Siemens Healthineersの大幅な増収、ならびにデジタルインダストリーおよびスマートインフラストラクチャーの大幅な増収の一方で、モビリティの売上は対ロシア制裁以降の減収の影響を受ける。
- 為替変動の影響は、受注、売上ともに4ポイントの加算をもたらした。ポートフォリオ効果は、主に2021年度第3四半期のVarian社の取得に関連するもので、受注に6ポイント、売上に5ポイントの加算をもたらした。
- インダストリービジネスの利益：コロナウイルス抗原検査が引き続き好調であること、デジタルインダストリーおよびスマートインフラストラクチャーが改善したことなどにより、Siemens Healthineersが大幅増益。一方、モビリティが対ロシア制裁以降の減損等の費用として合計6億ユーロの大幅損失を計上したことにより、全体として減益。デジタルインダストリーおよびスマートインフラストラクチャーはロシア関連の影響が軽微であった。
- ポートフォリオカンパニーの利益は、主としてValeo Siemens eAutomotive社の株式売却関連の3億ユーロの再評価益によりプラスに転じた一方、連結財務諸表との調整における損失が3億ユーロ増加。
- 当期純利益は、対ロシア制裁以降に主にモビリティで計上された減損損失等の費用による6億ユーロの影響を受けた。2021年度第2四半期には、非継続事業に属するFlender社の売却益9億ユーロが含まれている。
- インダストリービジネスが強大なフリーキャッシュフロー19億ユーロを生み出し、キャッシュ・コンバージョン・レートは1.07と、フリーキャッシュフローが21億ユーロとさらに多かった2021年度第2四半期をわずかに上回った。シーメンスグループのフリーキャッシュフローは13億ユーロと、2021年度第2四半期より納税額が多かったにもかかわらず同期を上回った。上述のロシア関連の影響は2022年度第2四半期のフリーキャッシュフローには影響を与えなかった。
- 2022年3月31日現在の年金引当金および類似債務は22億ユーロ（2021年12月31日時点では29億ユーロ）。この減少は、主に前提条件となる割引率の上昇によるもので、年金資産の運用損失により一部相殺された。
- ROCEは主に当期純利益の減少により低下。